女詐欺師が吹聴していた
仰天！皇太子とフィクサーの「同席写真」についた〝尾ヒレ〟

――昭和63年、日銀（日本銀行）の地下にある会議室で、浩宮様と日本の表と裏の実力者たちが集まって秘密の会議が開かれた。じつは天皇家の莫大な隠し財産が第一勧銀にプールされていて、どの企業にいくら融資するかという配分を、この会議で決めたのだ。浩宮様はその決定に承認のサインをした――。

いきなりこんな話を赤の他人に聞かされても、信じる人はいないはずだ。しかし、そのとき左上の写真を〝証拠〟として見せられたらどうだろう。

テーブルの上座に座っているのは、たしかに皇太子である。だが、殺風景な室内、折り畳み式のパイプ椅子、無造作に並んだ瓶ビールや乾き物は、およそ皇太子をもてなすのにそぐわない。背広を着た男が何人もテーブルを囲んでいるのも、明らかに異様である。日銀地下室での密談という話が、少しは信憑（しんぴょう）性を帯びてくるように感じないだろうか。

この写真は、ある女性が冒頭のような「日銀地下室での密談」の現場写真だと吹聴していたものだ。本誌は、複数の人物がこの写真のコピーを持っているのを確認した。

その女性の名を岡田貞子（写真左下）という。岡田女史は'96年、1兆2700億円という途方もない額の偽造小切手をシンガポールで換金しようとして逮捕され、実刑が確定。現地の刑務所で服役中の'97年に肝硬変のため獄死した。「父親は昭和天皇」「昭和天皇から13兆円を相続している」とうそぶく彼女を、周囲の多くは詐欺師と見なしていた。

彼女は、この写真に写っている人物についてこのような名前をあげていた。

柏村信雄（かしわむら）（元警察庁長官）、林健太郎（元東京大学総長）、安田元久（元学習院大学学長）、三善信一（元リコー会長）、佐藤茂（元川崎定徳社長）……。

本当ならば、たしかに錚々（そうそう）たる顔ぶれである。なかでもひときわ異彩を放つのは、佐藤茂という名だ。

故・佐藤茂氏は'86年、「金屏風事件」で平和相銀の株を買い占め、住友銀行との合併のカギを握った人物。故・竹下登首相や広域暴力団稲川会の石井進元会長らと親交が深く〝闇のフィクサー〟ともいわれた人物。本来なら皇太子の酒席のお相手としてふさわしいとも言いがたい。その佐藤氏が同席しているとなれば、冒頭の話もさもありなんと思えてくる。

この写真は、本当に密談の存在を証明する一枚なのだろうか。

当事者は語る

岡田女史が名を挙げた人々のなかで現在も存命なのは、三善信一氏（89）と林健太郎氏（89）だけである。本誌は話の真偽を確かめるため、三善氏に話を聞いた。

はたして三善氏は、写真に自分が写っていることを認め（皇太子に向かって右へ4人目）、こう証言した。

「ぼくがリコーの会長をしていたころです。場所は日銀ではなく、『養神館』という合気道の道場の会議室です。浩宮様は合気道をご覧になりたかったそうで、お忍びでお見えになったのです。私は養神館の役員をしていましたので呼ばれて同席しました。浩宮様は最後までニコニコと非常に明るい方で、スポーツにもずいぶん関心がおありのようでした。その場にほかに誰がいたかは覚えていません」

場所こそ違ったが、三善氏が同席していたのは本当だった。本誌は、東京・新宿区にある養神館の道場を訪ねた。

当時、自身もこの場にいたという井上強一道場長は、本誌が示した写真を見ながら、こう答えた。

「この写真が撮影されたのは昭和62（'87）年の5月14日です。浩宮様は1時間くらい演武をご覧になって、そのあとこの館長室で1時間ほど談笑されました。お出ししたのはビールと乾き物。特別な接待はしませんでした。写真の浩宮様の右隣に写っているのが、初代館長の塩田剛三（故人）です」

殺風景な部屋は、合気道の道場ゆえだったのだ。しかし、その場にいた人物の名を井上氏に尋ねると、すべて岡田女史が挙げた名と一致した。つまり、佐藤茂氏はやはり皇太子と同席していた。三善氏の右が佐藤氏だったのである。だが、井上氏はその理由をこう説明した。

「武道好きな佐藤さんは当時、うちの理事でしたからね。でも潔い方で、金屏風事件のあと、『迷惑をかけるから』と、ご自分から辞任されたんです」

なんと養神館は、柏村氏、林氏、三善氏、そして佐藤茂氏といった面々が、みな理事を務めていたのである。

井上氏の話から、この写真が密談の現場ではないことは、はっきりしたようだ。

貞子は死んでも……

岡田女史が、この写真にとんでもない〝尾ヒレ〟をつけた理由は何だろうか。考えられるのは、M資金詐欺である。戦前の皇室や旧日本軍の隠し財産をちらつかせて架空の投資話をもちかける類（たぐい）の詐欺は、いまも跡を絶たない。さらにこの写真の場合、「佐藤茂」の名にも大きな利用価値がある。佐藤氏と親交があった警視庁捜査4課のOBがいう。

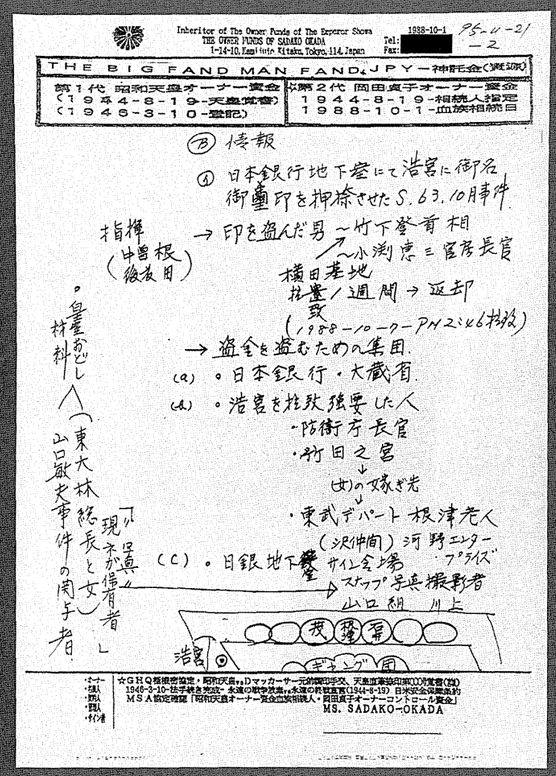
「彼はもともと政官財の大物と親しかったが、金屏風事件以降は怪しげな不動産ブローカーや詐欺師連中も出入りするようになった。彼らのなかには佐藤氏と親しいことをカサに着て、佐藤氏の裏の力を利用してカネ儲けを企むやつもいた。本人は意に介していないようでしたがね」

偶然、どこかでこの写真を目にした岡田女史も、皇太子と佐藤茂という二つの〝権威〟を利用しようとしていた可能性がある。本誌が入手した、彼女の書き残した膨大な覚え書きにも、皇太子と佐藤氏の同席についての記述が頻繁に現れる（写真右上）。周囲に座っている人物が暴力団関係者と書かれていることもある。おそろしいのは、岡田貞子亡きいまも、この写真のコピーが複数の人々の間で流通していることだ。

宮内庁報道室に見解を求めると、こう答えた。

「そのような写真についての報告はないが、皇室を利用したM資金詐欺の話はいまも聞いています。隠し財産分配の密談などあるはずがない。こうした報道を通して警鐘を鳴らしてほしいと思います」

▲問題の写真。一番奥が皇太子。右へ塩田剛三、安田元久、林健太郎、三善信一、佐藤茂の各氏。皇太子の左隣が柏村信雄氏。実物はカラー写真である



Inheritor of The Owner Funds of The Emperor Showa
THE OWNER FUNDS OF SADAKO OKADA
1-14-10, Kami-ochiai Kitaku, Tokyo, 114, Japan
1988-10-1 Tel: [redacted] Fax: [redacted]

THE BIG FAND MAN FAND, JPY－神戸会（準備）

第1代 昭和天皇オーナー資金（1944-8-19－天皇宣言）（1946-3-10－登記）
第2代 岡田貞子オーナー資金 1944-8-19－相続人指定 1988-10-1－血族相続日

㋐ 情報
① 日本銀行地下室にて浩宮に御名御璽印を押捺させた S.63.10月事件
指揮（中曽根後首相）→ 印を盗んだ男 ～竹下登首相 ～小渕恵三官房長官
横田基地 拉致／通関 → 返却（1988-10-7-PM2:46拘束）
→ 盗金を盗むための集団
(a) ・日本銀行・大蔵省
(b) ・浩宮を拉致強要した人
・防衛庁長官
・竹田之宮 ↓ (女)の嫁ぎ先 ↓
・東武デパート 根津老人
(沢仲間) 河野エンター・プライズ
(c) ・日銀地下室 サイレ会場 スナップ写真撮影者 山口 胡 川上
浩宮 ⊙ 茂 ギャング団
・皇室おとし材料 ＜（東大林総長と女）山口敏史事件の関係者
「川崎眞」が保有者」

☆GHQ極秘資産管理・昭和天皇＝Dマッカーサー元帥間密約文、天皇宣言(昭和21年1月1日)、1946-3-10-法人神社を宗教に、各種の戦争犯罪＝各種の戦争犯罪事項(1941-8-19)、日米安全保障条約
MSA協定確認「昭和天皇オーナー資金血族相続人・岡田貞子オーナーコントロール資金」
MS. SADAKO-OKADA

▲岡田貞子女史が書き残した覚え書き。荒唐無稽な内容だが、下に「浩宮」「茂」の文字が

◀岡田女史は自称、昭和3年生まれ。小学校の教員を30年間務めたあと学習塾を経営していた